

本市の学力の

～よく遊び、よく眠り、よく食べる子に～

状況について

本市の子どもの学力は、どのような状況なのか。今回は、各種学力調査結果を並べることで現状について示します。また、学力向上のために今後も継続して取り組みたいことを述べます。

【問合先】=教育委員会学校教育課 ☎(23)5111(内線 5341)

※写真はイメージです

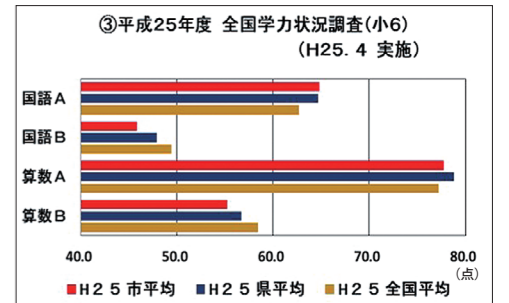
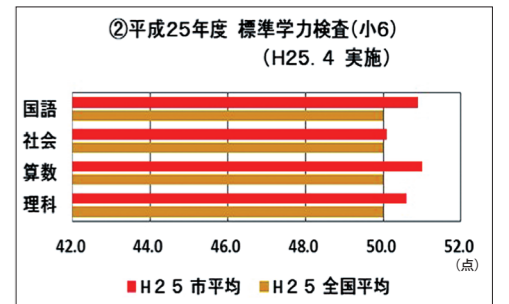
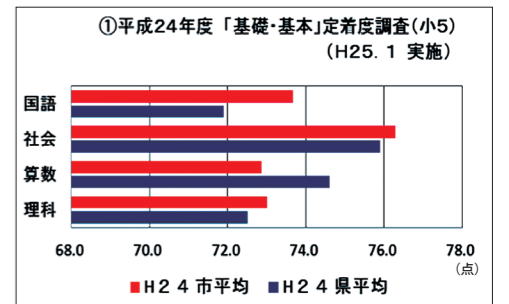
学力の現状

本市では、次の学力調査を実施しています。

- ①「基礎・基本」定着度調査
(毎年1月に小学5年生、中学1・2年生を対象に県独自の調査を実施)
- ②標準学力検査
(毎年4月に小学1年生以外の全児童・生徒を対象に実施)
- ③全国学力状況調査
(本年、4年ぶりに4月に小学6年生・中学3年生を対象に実施)

現在の小学6年生と中学3年生は、この3つの調査を受けていますので、それぞれの調査結果を並べてみることで、より学力の伸び具合や課題が見えてきます。

例えば、右下の3つのグラフは、現在の小学6年生の結果です。①を見るのと、国語・社会・理科において県平均を上回っていますが、算数では県平均に届いていないことが分かります。しかし、6年生に進級してすぐに受けた②の結果では、全教科において全国を上回っています。すなわち、現在の小学6年生は、基礎的な学力については、



着実に身に付きつつあると考えられます。こうした傾向は、③全国学力状況調査の結果にも見る事ができます。

この調査では、国語と算数・数学の2教科で、基礎的知識をみるA問題と活用力をみるB問題が出題されています。本市の小学6年生は、A問題において全国や県と同等の結果でした。

一方、B問題では、県や全国に届かない結果でした。例えば算数B問題では、「遊園地で、自分が持っている残りの券の枚数を考えたとき、どの乗り物を選ぶことができるか」という問題が出題されました。この問題を解くためには、「筋道を立てて考え、判断する力」が必要です。全国の正答率は約5割でしたが、本市は約4割でした。小学6年生の学力の様相は、中学生

学力向上のために

基本的な生活習慣の確立を

でも同じ状況が見られ、本市の課題として考えられます。では、学力向上のためにどのような取組が大切なのでしょうか。

学力の向上には、基本的な生活習慣の確立が大切です。昔からよくいわれる「よく遊び、よく眠り、よく食べる子」は、学力の向上と深く関わっています。

大脳生理学の権威で、元・東京大学名誉教授の時実利彦氏によると、人間の脳は、最初、生まれてから3年目まで急激に発達するそうです。その後、脳は発達し続け10歳前後までには、他

の神経細胞と繋がり、網の目のような神経回路を作り上げるそうです。

このような知見を読みますと、脳が発達する義務教育期において、生活習慣の大切さに改めて気付きます。

早寝・早起きができる子に

睡眠は、「脳や心身の疲労を回復することに加え、「今日の情報を整理し、記憶に残す」ためにも重要です。子どもは、よく遊び、たっぷりと眠ることで、今日の学習内容を整理し、記憶として残すことができます。睡眠不足の場合は、「忘れ物が多い」「注意される回数が多い」という傾向が見られます。家庭では、「早寝・早起き」のリズムを整え、良質な睡眠を確保してください。

朝ごはんをよく食べる子に

脳の栄養となるブドウ糖は、肝臓に蓄えられています。約12時間分しかないとされています。朝食を食べないこと、前日の夕食から学校給食まで12時間以上、脳に栄養の供給がないことになり、朝食と学力の関係については、「毎日朝食をとる子どもほど、テストの得点が高い傾向にある」(文部科学省資料)という指摘もあります。

学校と家庭が一緒になって

『子どもが育つ魔法の言葉』(ドロシー・ロー・ノルト作)の中に、「見つけてあげれば、子どもは頑張り屋になる」という一節があります。学校では、全教員がスクラムを組んで、授業の充実に努めます。ぜひ家庭も一緒になって、子どもの姿を「見つけ」、育てていきましょう。

生活習慣チェックリスト

できることから自分でやってみよう!

- カーテンを開けて朝の光を浴びる
- 決まった時刻に起きる(10数えたらふとんから出る)
- 部屋の空気を入れ換える
- 朝食の準備の手伝いをする
- 決められた時刻にテレビを消す
- 決まった時刻にふとんに入る
- 生活リズム表を作る
- カレンダーなどに毎日の目標(起床・就寝時刻、朝食摂取など)を達成したかどうかの記録をする



※写真はイメージです

- ◆早寝・早起き・朝ごはん
- ◆「10分×学年+30分」以上の家庭学習
- ◆笑顔であいさつ・お手伝い